

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだよ!
 令和4年4月発行・第180号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL:0952-31-6877

4月の生活目標

♪薄着の習慣を付けましょう
 ♪戸外で元気に遊びましょう



❀ 4月～6月の予定 ❀

※4月の支援の予約は、4/11(月)の9時半から
 受付けます。

月	日	曜	実施グループ名
4	18	月	フリーデー
	19	火	フリーデー
	20	水	フリーデー
	25	月	シニアサロン
5	10	火	フリーデー
	11	水	フリーデー
	13	金	フリーデー
	16	月	環境講座
	17	火	シニアサロン
	25	水	ミックス(じゃがいも掘り)
	26	木	ミックス(じゃがいも掘り)
6	6	月	赤ちゃんの日
	7	火	1歳の日
	8	水	1歳の日
	9	木	2.3歳の日
	10	金	シニアサロン
	15	水	リフレッシュ講座
	20	月	フリーデー
	21	火	フリーデー
	23	木	フリーデー

「シニアサロンぽぽら」

4月25日(月)10時から11時
 →防犯講座を行います!

「新しい時代の支援のカタチと」

子ども食堂という言葉が最近よく聞くようになりました。佐賀県でもNPOの方たちが主催され、子ども達が笑顔で食事をする姿がテレビや新聞で紹介されていました。

このような場所が求められている背景には、シングルでの育児、夜間勤務、病児を抱えた保護者の方達等、子育て中の家庭で困難に遭遇している方たちが多数おられるという社会の問題があります。20年近く前、同じようなことがありました。核家族化が急速に進み、孤立した母親の育児不安や地域との関りの希薄化等、社旗問題になりました。子育て家庭への支援が強く求められ、保育所等を中心にして幼稚園やこども園、行政が動き出し、身近なところに気楽に親子で遊びに行ける居場所づくりが実現しました。三光幼稚園では平成10年頃から少しずつ取り組み、三光保育園を開設した平成19年度から子育て支援事業として、1年を通して実施しています。

しかしながら、2年を超えたコロナ禍において、実施にも色々な制約が出たり、活動を休止したりと子育て家庭への応援ができないのが残念です。令和4年度の開始にあたり、今年こそはと、新しい時代の支援のカタチを模索していきたいと思います。親子で楽しく集い、色々なことにチャレンジできるよう、がんばりたいと思います。

今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

(三光保育園園長)

**永原学園三光保育園地域子育て支援センターでは
 以下のような事業をしています**

- 毎月1回～2回程度親子で登園し、一緒に楽しめます。
 ☆赤ちゃん(0歳)の日
 ☆1歳の日
 ☆2・3歳の日
 }月の初めに電話で予約。
- 就学前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して楽しく集う場です。
 ☆なかよしミックス・・・年3回実施。月の初めに電話で予約。
- 支援センター内を開放します。
 ☆フリーデー・・・月1～3回実施。月の初めに電話で予約。
- 地域の方々に「さんこうぽぽら」におこしいただき、集いの場として楽しいひと時を過ごします。
 ☆シニアサロンぽぽら・・・月1回実施
- その他
 ☆親子クッキング(8月)
 ☆リフレッシュ講座(年1回)
 ☆育児・環境講座(年5回)
 ☆育児相談(随時)
 ☆食育相談(要申込)

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

子育て便り

楽しさをとおした心の元気づくり

西九州大学短期大学部 幼児保育学科 准教授 竹森裕高

皆さんはレクリエーションというワードを聞いて、どのようなイメージがありますか？

日本レクリエーション協会では、『レクリエーション』という言葉の主旨を「心を元気にすること」と定義しています。レクリエーションに触れる中で、重要なのがコミュニケーションです。その中で、様々な遊びやゲーム、その場にいる人たちとの交流などで味わう楽しさから心が元気になるための手段としてレクリエーションを活用します。

レクリエーション活動からは、「活動そのものの楽しさ」と「集団で行う楽しさ」の2つの楽しさを得ることができます。これらは、活動する中での達成感や仲間との良いコミュニケーションからもたらされます。

最近の生活を振り返ると、新型コロナウイルス感染による様々な制限が続き、家族で過ごすことも多くなったことで、一緒にご飯を作ったり、体を動かしたり、工作したりと家族で、親子でたくさんふれあいながら過ごしたのではないのでしょうか。

家族との時間においても、レクリエーションの考え方は関連しており、家族とふれあう中で、何か達成感を得たり、コミュニケーションをとおして言葉や表情などから互いに意思疎通を図ることで、信頼関係の構築につながります。私は仕事から帰ると子どもたちに「今日はどんなことをしたの？」と聞くようにしています。子どもたちがどう過ごしたか知りたい思いはもちろん、子どもたちの感じたことを知ることでさらに会話が広がり、元気をもらえるような気持ちになります。

互いに分かり合い、円滑にコミュニケーションを図るためには、相手の気持ちを客観的に受け止めることや自分のことを伝えることが大切です。

そのためにも、家族で、親子で、一緒にふれあいながら共感できることをたくさん経験してほしいと思います。

最後に、新聞紙を使ったふれあい遊びを紹介したいと思います。

まずは新聞紙リングを作しましょう。リングの作り方はいろいろありますが、下記のような作り方もありますので、ご参照ください。作った新聞紙リングで輪投げ遊びをしたり、『おうちで60秒チャレンジ』などの遊び方がありますので、ぜひ試してみてください。（日本レクリエーション協会 HP「レクぽ」より）

家族で一緒に作ったり、遊んだりする中でコミュニケーションを大切にしながら楽しんでみてください。

『新聞紙リングの作り方』

（日本レクリエーション協会 HP「レクぽ」）

URL：<https://www.recreation.jp/asobi/article/727/3>

